（1）　主題名　正しい異性理解〔中学校　２－（４)〕
（2）　ねらい　男女は，互いに異性について正しい理解を深め，相手の人格を尊重する。
（3）　資料名　「アイツ」（出典：自分を見つめる　暁教育図書）

資料の概要
突然，母から明日の授業参観のことを持ち出され，ぎょっとした真一は，幼稚園からずっと一緒で近所に住む女の子藤原夏樹が言いつけたことに腹を立てる。次の日の帰り道，真一は昨日の腹立たしさを夏樹にぶつけたが，いつになく青ざめた夏樹の顔を見て，言いすぎたことを後悔し，そんな自分自身が腹立たしく思えてしまう。それから２人は，お互い気になりながらも口をきかなくなる。２ヶ月後，体育の時間にけがをした真一が水道のところに座っていると，夏樹がハンカチをポンと投げて走って行った。家に帰ってからも何度かハンカチを取りだした真一は，夏樹のことが気になってなかなか寝つけなかった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　異性を好きになることについて話し合う。	○異性を好きになるってどんなだろう。 ・「心のノート」P51 の「異性のここがすき・いや」の表を見て意見を出す	○自由な雰囲気で発表させる。
展開	2　資料を読んで真一と夏樹のそれぞれの思いについて考える。 3　今までと違った感情について出し合う。 4　相手を理解することを考える。	○授業参観のことを母から言われて真一は，どんなことを考えただろう。夏樹はどんな思いだっただろう。 ・夏樹のおせっかい ・きっと知らないから教えてあげた ○廊下ですれ違っても口をきかなくなってからの真一や夏樹はそれぞれどんな気持ちだったのだろう。 ・何であんなことを言ったのか ○夏樹はどんな思いでハンカチを投げたのだろう。そのときの真一の気持ちはどうだろう。 ・真一が心配である ・俺のことを気にしているのかな ◎「今までと違った感情」とは，どんな感情だろう。 ・優しさを強く感じるようになった ・好意を持つようになった ・夏樹が好きになってきた ○自分の気持ちをきちんと伝えて，相手を理解するためには，どう行動すればいいのだろう。 ・素直に自分の思いを出す ・相手の思いを大切にする	○家が近所で幼なじみでもあった２人の関係を押さえておく。 ○真一と夏樹のそれぞれの思いを考えていく。 ○お節介であるという夏樹の存在が気になっていることを理解させる。 ○夏樹のさり気ない行動についてその思いをとらえる。 ○夏樹の優しさに触れてからの気持ちの変化に気付かせる。 ○真一の素直な気持ちに気付かせる。 ○恥ずかしさを乗り越えて，誤解をまねかないようにすることの大切さをつかむ。
終末	5　教師の説話を聞いて，感想を書く。	○教師の説話を聞いて感想を書こう。 ・いろいろな思いがあるんだな ・異性について思ったことを書く	○初恋を題材にした説話を準備しておく。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

中学生にとって興味関心のある異性についての資料である。第１学年で扱われているが，生徒の発達段階からすると，実態に応じて第２学年で扱う方が効果的であることも考えられる。

２　指導過程の工夫

導入においては，「心のノート」を活用し，客観的なデータから自分と重なる意見を見つけ出し，関心を持たせた。

資料提示場面では，特に登場人物の思いが出ているところについて思いを込めて読んだ。

また，板書は考えさせる各場面をカードにして中央に貼り，その左右に真一と夏樹のそれぞれの思いを書き，比較しながら心の動きがわかるように示していった。

２人の思いをさらに深くとらえさせるために，口をきかなくなって２ヶ月の間のそれぞれの思いを，いくつかに区切って心の動きを考えていくことも一つの方法かと思われる。

３　発問の工夫

各場面ごとに真一と夏樹のそれぞれの心の動きを双方比較しながら進めていった。とらえにくい生徒には，資料のその場面や夏樹の日記を心を込めて読みながら，それぞれの思いに迫ることができるように話していった。

異性に対する好意や思いを資料をもとに理解させていったが，生徒の発達段階からとらえにくい生徒もいた。具体的な発問によって，とらえさせる工夫がいった。

４　生徒の反応

少し照れがあり心を閉ざしたりカモフラージュしたりして，本心で発表しようとする生徒が少なかった。また，異性をとても意識している生徒と，反対にあまり意識しておらず，考えを深めることができにくい生徒との差が大きかった。深く考えた生徒にとっては，異性を理解することの大切さをつかむことができた。

・中学生になったらこんな感情になるのかなと思った。
・実際にありそうな話だった。
・こういうときは素直になればいいんだ。
・お互い異性を理解することは大切なことだと思った。
・夏樹がお節介をしていなかったら，真一も夏樹も今までとは違う感情にはならなかったと思うから，結局夏樹のしたお節介はよいお節介になったと思った。
・異性を思う気持ちは誰にでもある気持ちだから大切にすればいい気持ちだと思う。

５　授業後のフォローアップ

帰りの会等で担任の経験談などをさらに交えて，異性を理解することの大切さの話をした。

（三原市立第三中学校）